

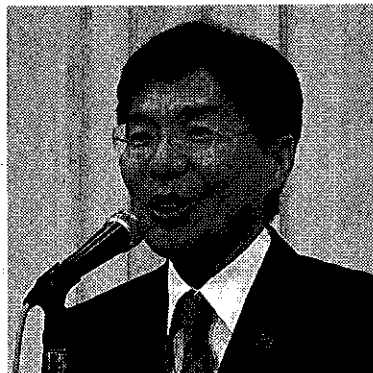
ICD日本部会

総会で事業計画等可決

新フェロー23人が誕生

国際歯科学士会(ICD)日本部会(宮崎隆会長)の第62回総会・認証式、特別講演会が8日、東京・飯田橋のホテルメトロポリタンエドモントで開催された。

総会では2018年度の決算、19年度事業計画案と予算の全ての議案が可決承認され、続いての認証式で

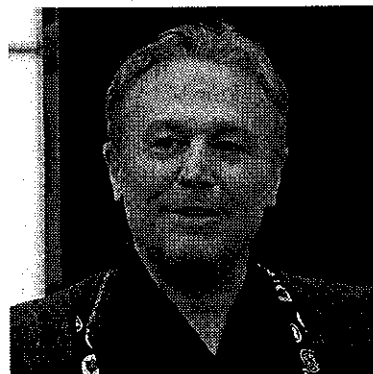


宮崎会長

新たに23人のフェローが誕生した。

そして特別講演会は、山梨学院大学教授のウィリアム・リード氏が「日本文化に刻み込まれた『身体』とは」という宝物」と題して話した。

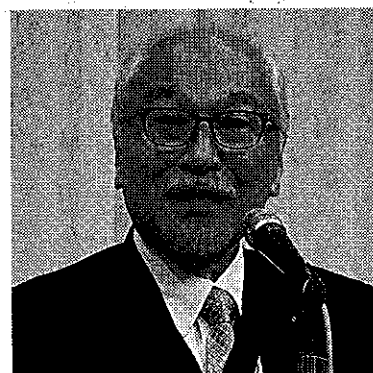
懇親会では冒頭、宮崎会長がそれぞれ優れた才能を



リード氏

持つフェローの誕生に歓迎の意を伝えた。そして「ICD創立100周年記念行事を目前にし、私たち日本部会もますます元気を出していきたい」などとあいさつした。

千田彰次期国際会長によ



千田次期国際会長

発声で祝宴となった。

祝宴中には、恒例の新フェローによる英語での自己紹介や、太神楽師の「丸一小助・小時」によるアトラクションなどが催された。

なお、ICDは1920年の設立で来年100周年を迎える。

欠点

- ▼ 歯の移動量の少ない症例に限られる(軽度の乱杭歯・歯の空隙、矯正治療後の軽い後戻り等)
- ▼ 毎日長時間の装着を必要とし、使用状況によって効果が大きく異なる
- ▼ 小児や骨格性要因を含む症例には適さない
- ▼ 現在の医療水準で考えれば精密な歯の移動は原則として困難で、満足のいく治療結果が得られない可能性がある

利点

- ▼ 他人から見えにくい装置である
- ▼ 装置の着脱が簡単で食事や歯磨きがし易い
- ▼ 金属アレルギーを有する人も使用できる
- ▼ 診療室での治療時間が比較的短い

る見解を5日に発表した。

「マウスピース型矯正装置による治療に関する見解」で、「矯正歯科治療は、正確な診断や精密な治療計画に立脚して行われるべき医療行為であり、誤ったマウスピース型製品の使用は予期せぬ大きな問題を引き起こす可能性がある」と指摘。患者独自の判断で同様の製品を使って歯を移動させる

治験終了 製品化

骨再生誘導材 今秋に発売予定

東北大学大学院歯学研究科と東洋紡(本社・大阪市、植原誠慈社長)が共同で開発し、2015年から全国9カ所で臨床試験を進めてきた骨再生誘導材「ボナー」が今年5月29日、厚生省の製造販売承認を取得した。今秋から発売予定。同大が7日に発表した。

同製品は、オクタカルシウムフォスフェート・コラーゲン複合体で、「細胞や成長因子の補充なしでの骨再生実現」「元の骨と同等な性質の骨再生」「使用法の簡便